

自然共生河川研究所(岐阜分室)だより

岐阜分室研究第三部次長 梅谷内 信夫

岐阜分室では岐阜県土木部と建設省木曾川上流工事事務所の若手職員を対象にして、木曾三川自然共生研究会を開いております。

この研究会は現場を中心とした研究会で、主に生態系の先生から御指導を受け、土木技術者から見た素朴な疑問について意見を交換することによって、治水と生態系の保全という大きな問題をどのように両立させられるかについてお互いに理解を深めるべく会を進めております。

去る、8月29日に実施しました第6回の研究会について報告します。

今回の講師は、30年近くにわたり長良川の62km付近の関市保戸島において登り落ち漁によって魚の生態を調査されています後藤宮子先生にお願いしました。

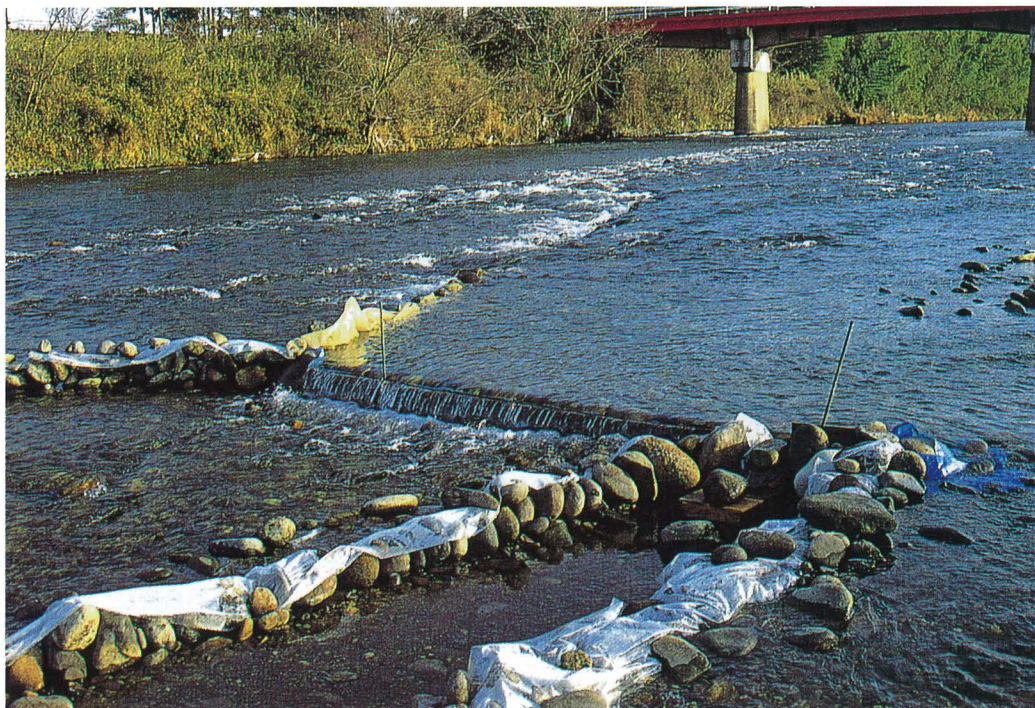
先生は登り落ち漁によって朝夕2回観察されておりまして。それは朝獲れた魚は夜活動した魚であり、夕方獲れた魚は昼活動した魚であることが判別できるからです。

この観察を、1975年5月から1995年12月まで計5,884回観察しておりますが(今も継続中)、その間に47種、計1,247,798匹獲れたとのこと。そのうちの約70%がカワヨシノボリとのことであり、登り落ち漁はこの魚を獲るに適した漁法であると言えるようです。

そうしますと、長良川の魚相を調べるのにこの漁法が適さないのではという考えも成立しますが、大きな魚は獲れなくても稚魚・幼魚は獲れますのでそれなりの評価ができる方法であると言えそうです。

これからもより良い川づくりのためにこの研究会を進めていきたいと考えておりますが、今回の研究会の前日に台風で出水があり登り落ち漁の現場での観察ができなかったのが残念です。

後日撮影しました写真を載せることで、ここでは現地報告にかえさせていただきます。



リバーフロント整備センター 岐阜分室
〒500 岐阜市司町1番地岐阜総合庁舎1階

TEL 058(264)8151 FAX 6757

次 長 梅谷内 信夫
主任研究員 鈴木 金治
主 事 鷲見 昌子